

第30回



馬酔木展

—あせび—

早春を伝える
小さく可憐な花が
見る人を
楽しませてくれます。

期間

2018年

2月23日(金)~4月18日(水)

午前9時~午後4時半

会場

真宗大谷派長浜別院

大通寺

滋賀県長浜市元浜町32-9

拝観料

大人 500円

中学生 100円

(小学生以下無料)

※団体割引20名様以上 大人450円



公共交通機関 JR琵琶湖線「長浜駅」下車徒歩10分
お車 北陸自動車道長浜ICから車で8分

大通寺諸殿と馬酔木展をご覧頂けます



▲大広間



▲新御座

大通寺は真宗大谷派(東本願寺)の別院で、正式には無礙智山(むげちざん)大通寺と言います。一般的には「ごほうさん」の名で親しまれています。総檜造りの山門をくぐると、そこは桃山文化の世界。本堂や大広間は伏見城の遺構と伝わる重要文化財で、絢爛豪華な桃山文化を随所に垣間見られます。また脇門(台所門)は長浜城の大手門を移築するなど建造物の多くが文化財に指定されています。諸殿の含山軒・蘭亭の障壁は、狩野山楽・山雪らによって描かれ、その庭園は国の名勝に指定されています。

馬酔木

あせび

馬酔木は、本州以南の全国に自生するツツジ科の樹木。古来より存在が確認されており、特に奈良地方に多く群生するものは、意図的に植え込まれたものとも考えられる。京都には古木群もあるとも聞く。

馬酔木の名は、毒（アセボトキン）を持ち、馬などの動物がそれを口にすれば、痺れて酔ったようになることに由来する。馬が本当に口にすることは不明だが、古くは殺虫剤として便所など虫のわく場所で使われていたらしい。

花は古くから愛し続けられており、万葉集にも『池水に 影さへ見えて 咲きにほふ 馬酔木の花を 袖に扱入れな』（大伴家持）など、この花を詠んだ歌が10首もみられる。山に自生している間は花付きが悪いが、里に植え愛情をこめて育てると8月頃に花芽がつく。早春から4月半ばまで白、紅、ピンクの小さい可憐な花が房になって垂れ下がり、艶のある葉の緑と調和し美しい。



大通寺 ～だいつうじ～

滋賀県の古刹、大通寺は江戸時代初期に建立され、真宗大谷派（東本願寺）の別院として知られています。幅広い層から信仰をあつめ、地元の人々から「御坊さん」と親しみを込めて呼ばれています。

重要文化財に指定されている、伏見城の遺構と伝わる本堂や大広間など建造物をはじめ、室内を飾る障壁画や工芸など、絢爛豪華な桃山文化を随所に垣間見ることができます。

国の名勝庭園に指定されている含山軒庭園は、標高1377メートル、日本百名山の1つに数えられる伊吹山を借景とし四季折々、見応えがあります。

また大通寺は江戸時代を通して、彦根藩 井伊家と深い関係を維持してきました。井伊家からは寺領や建造物の寄贈だけでなく、井伊家の息女や息男を迎えました。砂千代姫は井伊直弼の七女で1858（安政5）年に大通寺の養女となり、その後大通寺の第10代の住職の内室となりました。大通寺には砂千代姫の調度品を多く所蔵しており、その一部を諸殿にて展示しております。

この機会にぜひ大通寺へお越しください。



▲本堂



▲山門



▲附玄関



▲鶉図